



**佐東接骨院**  
TEL FAX 0465-63-0981

R2 6月号 第396  
**元気情報**

各種保険取扱  
スポーツの怪我の克服  
交通事故の痛み除去



受付時間  
平日 午前8時～12時  
午後3時～7時  
土曜日 午前8時～12時  
休診日 日曜日・祝祭日



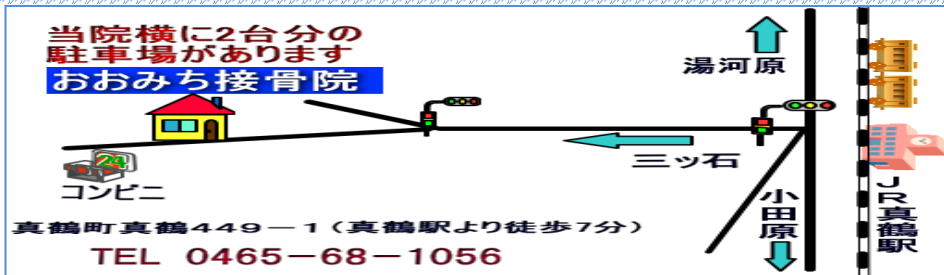
第  Since 1981

**おおみち接骨院**



診療時間

平日 午前8:00～12:00 午後  
3:00～7:00  
土曜日 午前8:00～12:00 午後2:  
00～5:00  
日曜・祝日 休診



## 接骨院だより

先月 26 日にようやく非常事態宣言が解除され、約 1 ヶ月半のわずらわしい生活ともおさらばかと思いきや、まだまだ新型コロナウイルス肺炎は収束することはなく、気の抜けない生活が続きます。

実際、おさまったものの再び感染者が増えている地域も出てきています。

この厄介な時期を乗り越えるには、やはり一人一人が、感染拡大防止のルールを守って生活していくこと以外にはなさそうです。



多少隣の席が離れていても、はやく以前のよう  
に 気楽に街に  
出て行かれるよう

になりたいものです。

## 雨の匂い

荒 木 徹

6月になり、約1ヶ月半続いた緊急事態宣言も全国で解除になりました。いきなり今までの生活とはいかないでしょうが、起こり得る感染の第2波を最小限に留めることに注意しながらも、少しずつ今までの生活に近づける様になることを切に願うばかりです。

梅雨の季節が近づき、間もなくジメジメとした嫌な時期になりますね。

みなさんも一度は雨の日の独特な匂いを感じたことはないでしょうか。雨上がりにアスファルトなど道路からの感じる匂いが特徴的かと思います。

あの雨の日の独特な匂いにも名前があり原因もあるので。雨が降る前に感じる匂いをペトリコール、降った後に感じる匂いをジオスミンと呼ばれています。



雨が降る前に感じる匂いのペトリコール。これは、ギリシャ語で石のエッセンスという意味があります。

雨が降り始める前に雨の匂いを感じて雨が降りそうかなと思ったことはないでしょうか。この時に感じ

るのがペトリコールと呼ばれる匂いで、湿度が高くなると鉄分と反応して匂いが発生するのです。

また、特定の植物から発生した油分が地面や岩石などに付着し、その油分が雨によって放出され匂いを感じるとも言われています。

このペトリコールという匂いは雨が降ると流されやすいものなので大雨より小雨の時の方が感じやすいそうです。

雨が降る前に感じる匂いがペトリコールに対して、雨が降った後に感じる匂いをジオスミンと呼ばれています。

ジオスミンは大地の匂いという意味で GEL(大地) + SMELL(匂い)が由来となっています。

ジオスミンは湿った土壌中のバクテリアなどの細菌が作り出す物質でカビ臭の原因にもなる物質です。雨が降ると空气中に拡散され、わずかな量でもカビ臭を発散させ、この匂いは湿度が高いほど伝わりやすいという性質があります。

雨が降る前の匂いがペトリコール、雨が降った後の匂いがジオスミン。

では、みなさんも一番感じたことがあると思う、雨上がりのアスファルトから感じる匂いは？この雨上がりのアスファルトから感じる匂いには諸説あるようです。

カビや排気ガスなどを含む埃が水と混ざり、アスファル



トの熱によって匂い成分が気体になったものという考え方。ペトリコールは雨が降る前に感じる匂いと言われていますが、雨上がりのアスファルトの匂いも含めてペトリコールと呼んでいるものもあります。

梅雨の季節になり、雨でジメジメとした日が多くなり気分が沈みやすくなりますが、雨の日にはしか感じられない匂いを石のエッセンスと思うことで少しでも楽しい気持ちになれるのではないのでしょうか。

#### 夏越しの祓（なごしのはらえ）



旧暦の6月末に行われる「夏越しの祓」は、半年分のけがれを落とす行事で、残りの半年の健康と厄除けを祈願します。そして後半の半年にも同じようなものがあります。それが「年末の祓」です。



当然 12 月末に行います。

この 2 つは、対なる行事で心身を清めてお盆や新年を迎えるためのものです。

「茅の輪くぐり」の茅の輪は、チガヤという草を編んだ輪のことです。

神社の境内に作られた大きな茅の輪の中を

「水無月の 夏越しの祓する人は 千歳の命延（の）ぶというなり」

と唱えながら 8 の字を書くように 3 度くぐりぬけます。くぐることで病気や災いから逃れることができるとされています。

「人形（ひとがた）」とは人の形を模した紙の形代です。

人形に自分の名前や年齢などを書き、その人形で体を撫でて人形に罪や汚れを移し、身代わりとして人神社に納めます。



人形を川に流したり、篝火（かがりび）を焚いたり水や火を使う神事で清め落とします。

篝火（かがりび）を焚いたり水や火を使う神事で清め落とします。

「水無月を食べて 厄落とし」

冷房も冷蔵庫もない時代、蒸し暑くなる 7 月はしばしば病気が流行りました。

体力も消耗するので、甘く食べやすいお菓子でエネルギーを補給し厄払いをしていたようです。

京都には「夏越しの祓」の日に食べる伝統的な和菓子があります。

「水無月」と呼ばれ、ういろうの上に邪気を払うあずきがのった三角形のお菓子です。

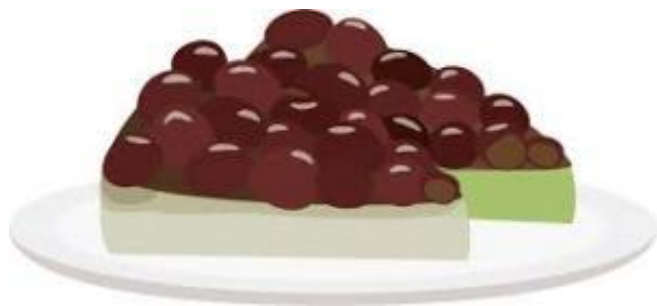
三角形は、削りたての氷を表しています。

昔 宮中では、旧暦6月1日に「氷の節句」が行われていました。

冬にできた氷を山間の氷室に貯蔵しておき、そこから取り寄せた氷を口にして夏を健康に過ごせるように祈るものでした。

しかし、庶民にとって氷は高根の花、そこで氷をかたどった三角形の生地に厄除けの小豆を散らしたお菓子が作られました。

皆さんも一度は口にしたことがあるのでは、、、。



**Assoc.sato だより**



**湯河原・佐東接骨院**

ウォーキングマシンで歩く姿をビデオに撮って、良いところ悪いところを理解していただいています。

今のところ 10 人以上の方が試してよい結果が得られています。

ご希望の方は、お声をかけてください。



**当院におきましては、新型コロナ対策のため施術者、スタッフともに患者様おひとりごとにアルコール消毒、ベッド、低周波機器などの道具には次亜塩素酸溶液による消毒をしております。**

**院内の換気にも、注意をし、安心して来院できるように心がけております。**



**真鶴・おおみち接骨院**

5月の満月、フラワームーン。  
この日は天気もよく、とても綺麗に見られました。  
花が咲き誇る時期ということからフラワームーンと呼ばれるそうです。